

目 次

はじめに	2
I 博物館概要	
◦設置目的	3
◦沿革	4
◦施設・設備	5
II 昭和63年度 組織・運営	
◦組織	7
◦予算	8
◦事業計画	9
III 昭和62年度のあゆみ	
◦職員	10
◦日誌抄	10
◦実施事業	13
◦常設展	
(1) 刀剣コーナー	14
(2) スタディコーナー	
(3) 旧徳山村民家 移築復元	15
(4) 自然展示室1 整備充実	
◦特別展	
(1) 濃飛の弥生時代	16
(2) 外国から侵入した生きものたち	17
(3) 飛驒の匠	18
◦資料紹介展	
(1) はかり	19
(2) 身近な資源—石灰岩—	20
◦その他の展示	21
◦調査研究・資料収集活動	22
◦教育普及活動	26
◦図書資料寄贈者芳名一覧	28
◦利用状況	31
◦博物館関係団体	32
IV 利用案内	33

はじめに

県博物館は、生涯教育の一翼を担う社会教育機関として、開館以来13年目を迎え、年々充実してまいりました。この間、県民の皆さま方のご協力や、関係の方々のご指導に対しまして、厚く御礼申しあげます。

博物館の機能は、資料の収集・整理保存・調査研究・教育普及活動であります。これらの事業に対しましては、皆さま方の要望に応え、その推進を図ってまいりました。

昭和62年度には、春・夏・秋の特別展、冬の資料紹介展、県博日曜講座を始め各種催し物を開催してまいりました。また一昨年から2年に渡る事業として、徳山の民家の移築復元工事を完了しました。今年度は、中部未来博88が開催される記念すべき年であり、当館としましては、協賛事業として夏の記念展に「中山道—美濃十六宿」を開催いたします。諸事業につきましても、さらに充実した内容とし、県民の皆さまのご期待にそうよう努めていきたいと考えています。

ここに昭和62年度の活動記録をまとめた岐阜県博物館報第11号をお届けいたします。これまでのご理解とご支援に心からお礼申し上げますとともに、今後とも、ご指導ご鞭撻を賜わりますよう、よろしくお願い申し上げます。

昭和63年4月1日

岐阜県博物館長 森崎 利光

I 博物館概要

〔設置目的〕

岐阜県の人文、自然両分野にわたる諸資料を公開し、あわせて教育普及活動を行うことにより、広く県民の学習の場となり、また文化財保護の精神の涵養に役立て新しい教養と文化の発展に寄与することを目的とする。

当博物館の基本的な性格と、資料収集・展示構成及び事業運営についての基本的な方針は次のとおりである。

・基本的性格

岐阜県の人文（考古、歴史、民俗、美術工芸）自然（動物、植物、地学）等に関する諸資料を収集、保管、展示、調査研究およびその活用をはかる総合博物館である。

学校教育・社会教育との密接な連携をはかり、利用者が楽しく学習することができて、未来への探究心と創造性を開発させるような生涯教育機関である。

県内の博物館および相当施設との連携をとり、資料の交換、提供をはかり、本県の中央博物館としての役割をはたす内容と設備を有する施設である。

資料の開発および保存活用について、専門的な調査研究を推進する機関である。

・資料収集

県内の考古・歴史・民俗・美術工芸、自然等に関する資料を収集する。

資料は、実物を中心とするが必要に応じ厳密な考証にもとづく復元模型を含める。

寄贈、寄託、借用、購入等によって収集する。

・展示構成

展示は、常設展示と特別展示とする。

常設展示は、総合展示と課題展示とし、それぞれ人文、自然の二部門に分ける。総合展示は、だれにも親しめるように平易な展示を心がけ、本県の歴史の発展の概要と、自然環境の概要を理解しやすく展示する。課題展示は、内容において、前者よりやや高度のものとする。

展示の内容は、(1)生涯教育の場として、幅広

い層に親しめる展示、(2)単なる資料の羅列ではなくストーリーのある展示 (3)総花的展示を避け、各時代の特色やテーマの本質をとらえた展示 (4)出来る限り実物資料を展示するが、さらに図表、模型等多種類の資料の活用 (5)視聴覚機器などを取り入れ観る人に強く訴える設備 (6)解説等はわかりやすく理解できるものとする。

展示室の主題と内容は次のとおりである。

・人文総合展示（人文展示室1）

主題「郷土のあゆみ」原始時代から近代、現代に至るまでの歴史の流れと、各時代の特色をわかりやすく展示する。

・自然総合展示（自然展示室1）

主題「郷土の自然とおいたち」郷土の自然のあらましを生態的にわかりやすく展示する。

・人文課題展示（人文展示室2）

主題「郷土の美術工芸」特色ある郷土の美術工芸を部門別、時代別に展示する。

・自然課題展示（自然展示室2）

主題「郷土のさまざまな自然」特色ある自然物や事象をテーマ別に系統的に展示する。

特別展示室には、特定の企画とテーマを設けて年に数回展示する。

・事業運営

資料は、本県の歴史的発展の立場から価値のあるもの、また県内の自然にかかわる価値のあるものを保全し、収集保存する。

常設展示は、県民の学習に役立たせるため、展示構成の充実をはかる。

特別展示は、テーマの設定に配慮し内容の充実をはかる。

調査研究は、資料に関する専門的技術的な調査研究と資料の展示、保存に関する研究を行う。

教育普及は、各種の催しものを通じて県民の理解と関心を深め、生涯教育の場づくりをする。併せて各種の啓発活動を推進する。

〔沿革〕

岐阜県博物館は、置県100年の記念事業の1つとして、昭和51年5月5日にアカマツの自然林の中に開館した。

県内各地の豊かな資料をもとに、常設展示は自然展示室1・2、人文展示室1・2、に分かれ、郷土岐阜県を紹介した総合博物館である。

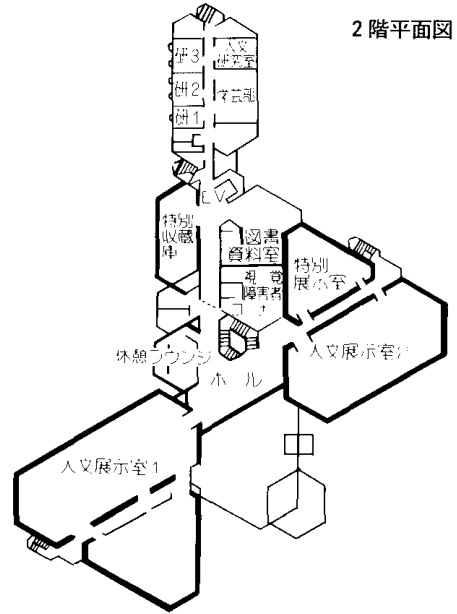
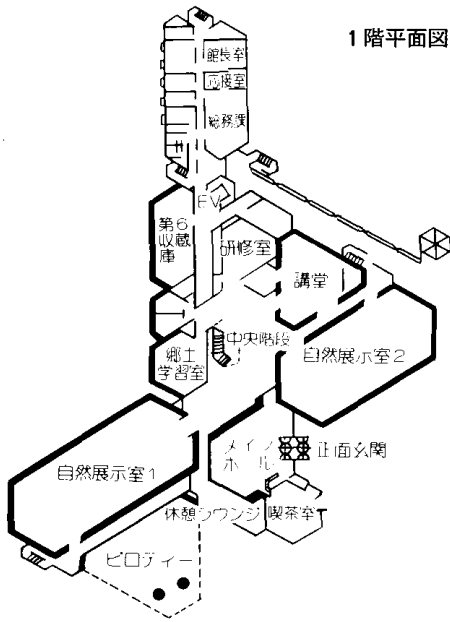
なお、年に数回の特別展も開催している。

博物館建設準備段階からの沿革は次のとおりである。

昭和46年3月	岐阜県百年記念事業推進委員会において、博物館の建設を決定	4月	特別展「濃飛の先史時代」
4月	教育委員会社会教育課に博物館準備担当を配置	7月	特別展「世界の貝」
8～9月	博物館懇談会を設ける	10月	特別展「濃飛の文人」
昭和47年4月	博物館開設準備室を設置 展示委員会をつくる	昭和55年4月	特別展「宝暦治水と薩摩藩」
昭和48年8月	起工式挙行	5月	入館者50万人を突破
昭和49年3月	展示実施計画できる	7月	特別展「化石の世界」
10月	定礎式	10月	特別展「蓑虫山人」
昭和50年3月	展示工事着手	昭和56年4月	特別展「美濃の絵馬」
7月	本館建築竣工	5月	入館者60万人を突破
昭和51年1月	展示工事完了	7月	特別展「御岳山は生きている」
4月	岐阜県博物館条例公布 岐阜県博物館設置 展示資料等製作完了	10月	特別展「ふるさとの美濃古陶」
5月	開館記念式典挙行一般公開 巨匠三人展・スポーツ栄光展	昭和57年4月	特別展「高賀山の信仰」 入館者70万人を突破
7月	皇太子同妃両殿下行啓	7月	特別展「ふるさとの植物」
8月	特別展「ふるさとの文楽」 入館者10万人を突破	10月	特別展「東洋の貨幣」
10月	入館料徴収開始	昭和58年4月	特別展「岐阜県の考古遺物」
11月	特別展「熊谷守一展」	5月	入館者80万人を突破
昭和52年5月	特別展「日本伝統工芸秀作展」 入館者20万人を突破	7月	特別展「長良川」
7月	特別展「郷土の化石展」	10月	特別展「郷土の生んだ先覚者」
11月	特別展「鉄斎」	昭和59年4月	特別展「濃飛の戦国武将」
昭和53年4月	入館者30万人を突破 特別展「濃飛の甲冑」	7月	特別展「ふるさとの昆虫」
7月	特別展「世界のコガネムシ」	8月	入館者90万人を突破
10月	特別展「能面と装束」	10月	学習室ビデオスタディコーナー設置
昭和54年4月	入館者40万人を突破	10月	特別展「美濃の蘭学」
		昭和60年4月	特別展「濃飛の縄文時代」
		7月	特別展「鉱物の世界」
		10月	特別展「美濃の刀剣」 入館者100万人を突破
		12月	自然展示室Ⅱを改装
		昭和61年4月	特別展「徳山の四季とくらし」
		7月	特別展「奥飛驒の自然」
		9月	人文展示室Ⅰを改装
		10月	開館10周年記念式典を挙行 開館10周年記念展「ふるさとの祭り」
		昭和62年4月	特別展「濃飛の弥生時代」
		7月	特別展「外国から侵入した生きものたち」
		10月	特別展「飛驒の匠」 旧徳山村民家移築復元
		昭和63年1月	自然展示室Ⅰを改装

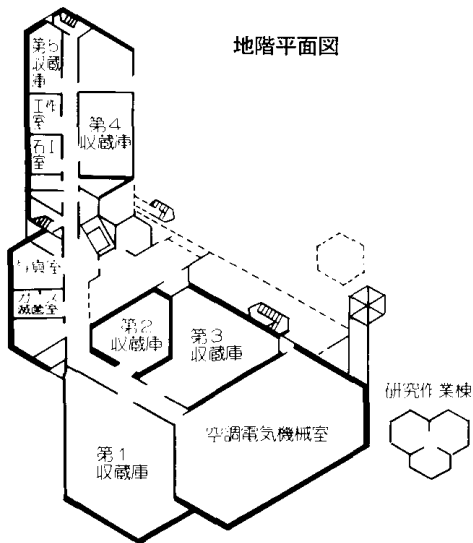
〔施設・設備〕

1. 博物館

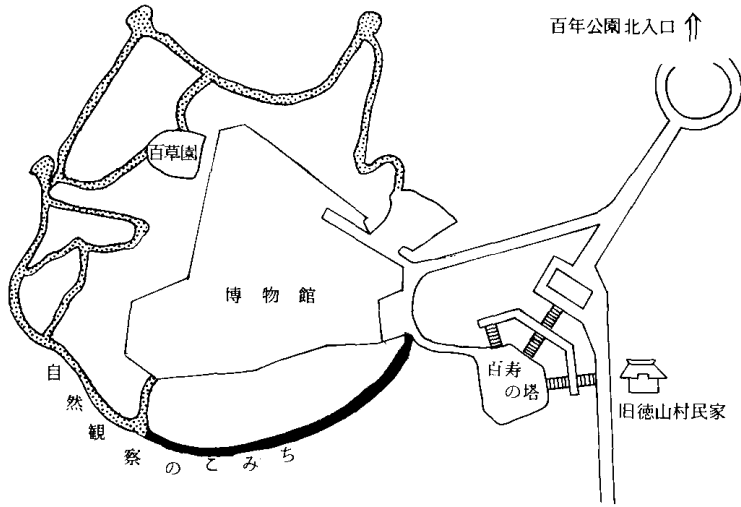


・主要室名及び面積

	室名	面積 (㎡)
1 階	自然展示室 1	583.8
	自然展示室 2	478.8
	郷土学習室	95.4
	講堂	174.5
	研修室	93.2
	第 6 収蔵庫	142.8
2 階	人文展示室 1	942.2
	人文展示室 2	478.8
	特別展示室	193.2
	図書資料室	191.7
	視覚障害者コーナー	84.7
	特別収蔵庫	142.8
	地 下	第 1 収蔵庫
	第 2 収蔵庫	126.0
	第 3 収蔵庫	192.0
	第 4 収蔵庫	99.4
	第 5 収蔵庫	55.0



2. 屋外施設



(1) 自然観察のこみち

館内における“郷土の自然”の展示に対応し自然環境の中の生きた展示物として、季節とともに移り変わる自然のすがたを見ていただくことを目的としたこみちです。

昭和60年度には新たに百草園を設け、また、昭和62年度には博物館の玄関に至る階段の登り口付近からも行けるように約230m延長しました。

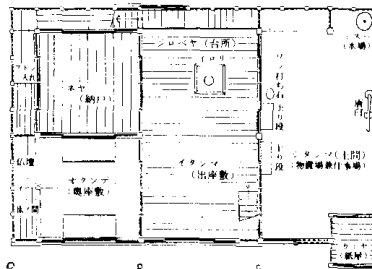
(2) 旧徳山村民家

全国でも余り例をみない全村水没という事態を迎えて、徳山村は閉村となりましたが、徳山の生活を後世に語り継ぎたいと願い、当時徳山村戸入在住の宮川澄雄さんから家屋の提供を受け、昭和62年10月7日、移築復元を完了しました。

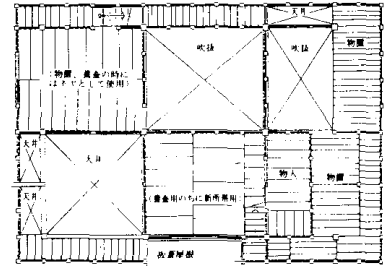


(民家のあらまし)

- ・様式 木造2階建かやぶき 南平入り
- ・建築年代 幕末から明治初年ごろと推定
- ・主材 ブナ・トチ
- ・屋根 入母屋式
切り落とし窓つき
- ・建面積 136.25㎡
- ・延面積 222.89㎡
- ・間取り 右図参照



1階間取り図

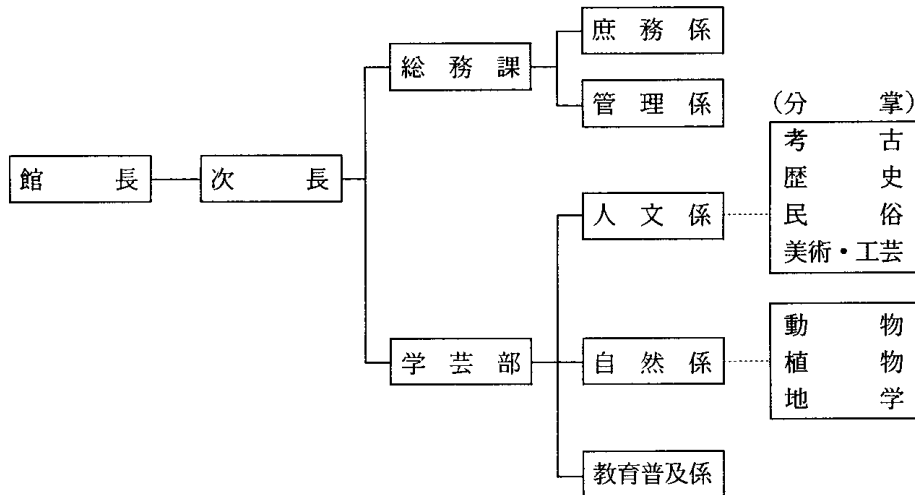


2階間取り図

II 昭和63年度 組織・運営

〔組織〕

1. 機構



2. 職員

昭和63年4月1日現在

職名	氏名	職名	氏名
館長	森崎利光	〔学芸部〕	
次長	沢田豊	学芸部長	鳥居甚吾
〔総務課〕		課長補佐(兼)人文係長	清水廣美
課長	柳瀬実	学芸主事	名和正浩
庶務係長	尾野元啓	〃	尾関章
主事	鷺見信明	教諭(研修)	川瀬善忠
主任	山口弘子	教育主事	今井雅巳
技師	林作男	課長補佐(兼)自然係長	曾我敏男
課長補佐(兼)管理係長	福田正美	学芸主事(学芸員)	國光正宏
主事	伊藤武嘉	学芸主事	中島恬
業務囑託員	織部清美	学芸主事(学芸員)	安藤志郎
〃	山口誉里子	学芸囑託員	長谷川道明
〃	石井敬子	教育普及係長	馬淵隆司
〃	佐藤育栄	学芸主事	大平高
〃	三浦佳子	学芸囑託員	大沢淳一
〃	土田みゆき	〃	青木修

3. 博物館協議会

当協議会は、博物館の運営に関し、館長の諮問に応じ、又は意見を述べる機関として、岐阜県博物館条例（昭和51年）第2条の規定に基づいて設置され、委員は次のとおりである。

◎…会長 ○…副会長

昭和63年4月1日現在

氏名	住所	現職
◎林 金雄	各務原市那加雲雀町37-2	岐阜大学名誉教授
○土屋 齊	大垣市荒尾町1077	(株)大垣共立銀行取締役会長
坂倉 又吉	羽島市竹鼻町2733	千代菊(株)取締役社長
溝脇 昭人	岐阜市鷺山186-1	岐阜新聞社論説委員
野村 忠夫	稲沢市下津町東国府34	岐阜大学教育学部教授
福井 豊海	各務原市つつじが丘2-130	岐阜県高等学校長協会会長
古田 文兵	美濃加茂市中富町1-2-31	岐阜県中学校長会会長
佐野 晃	岐阜市栗野東3-447	岐阜県小学校長会会長
片桐 孝	岐阜市五坪町1450コーポ田神E-107	岐阜県私立中学高等学校協会会長
青木 秀英	本巣郡真正町下真桑1148-1	岐阜県公民館連合会会長
篠田 薫	岐阜市栗野西1-10	かぐや第三幼稚園副園長

〔予算〕

当初予算額（単位 千円）

区分	年度		昭和60年度	昭和61年度	昭和62年度	昭和63年度
	区分					
歳入	博物館使用料		9,664	9,530	9,166	12,528
	諸収入		319	300	313	279
	合計		9,983	9,830	9,479	12,807
歳出	博管理 物運 管 館費	運営費	26,508	30,453	31,869	31,460
		施設管理費	81,761	83,609	79,295	80,125
		博物館協議会費	284	308	308	308
		計	108,553	114,370	111,472	111,893
	博 物 館 事 業 費	常設展示費	23,279	23,279	22,279	21,479
		徳山村文化遺産 保存事業費	0	14,100	18,078	0
		特別展示費	7,000	10,000	7,200	10,000
		資料収集管理費	1,300	1,940	1,940	2,064
		教育普及活動費	2,400	2,400	2,400	2,400
		調査研究費	600	600	600	600
計		34,579	52,319	52,497	36,543	
合計		143,132	166,689	163,969	148,436	

〔事業計画〕

展示活動

事業名	期間	主な展示内容
常設展		1階自然展示室は郷土の自然、2階人文展示室は郷土のあゆみと美術工芸を展示。刀剣コーナーは4回展示替え。
特別展 「ふるさとの湿原 —守ろう/湿原の貴重な生物— 中部未来博記念展 「中山道—美濃十六宿」	4/27～6/19	県内の湿原に見られる特有な生物を実物標本を中心に展示し、その貴重さと保護の大切さを紹介する。
特別展 「中生代の化石 —日本列島が大陸であったころ」	7/13～9/15 10/12～11/27	美濃十六宿を中心に中山道の歴史、旅のようす、中山道を中心とした美濃文化などを紹介する。 中生代の化石を紹介するとともに、化石を通して解明されつつある中生代の日本列島の地史について解説する。
資料紹介展 民具 人里の動物	12/13～1/29 2/11～3/31	農具を含んだ民具を実物資料を中心として紹介する。 身近に生息する動物の生態や人とのかかわりを紹介する。
移動展	7/27～8/7 8/10～8/22	根尾村文化センター 県内にみられる植物や動物を押し葉標本や複製標本で紹介する。 真正町中央公民館

教育普及活動

事業名	期日	対象	定員	内容
特別展 記念展 講演会	5/1 7/31 9/11 10/30 11/20	一 般 " " " "		湿原における生物相とその自然保護 名古屋女子大学 佐藤 正孝氏 街道を支えた人々 元岐阜県歴史資料館長 太田 三郎氏 中山道と美濃の文化 奈良教育大学教授 赤井 達郎氏 化石からみた岐阜県 名古屋大学教授 糸魚川厚二氏 中生代の化石 化石友の会会員 中島 公 氏
県博日曜講座①	4/29	一 般		濃飛の戦国武将（道三をとりまき戦国の武将たち）
②	5/5	"		ふるさとの湿原（動物・昆虫）
③	5/22	"		ふるさとの湿原（植物）
④	6/19	"		中世の民俗芸能（延年を中心として）
⑤	7/10	"		濃飛の山岳信仰
⑥	8/28	"		参勤交代（中山道を往来した大名たち）
⑦	9/15	"		美濃を中心とした河川交通と産業
⑧	9/25	"		鉄の伝承（一ツ目小僧と両面宿禰）
⑨	10/9	"		濃飛の仏像・仏画
⑩	10/23	"		化石を調べよう（シダ植物化石・フズリナ化石など）
⑪	11/27	"		濃飛の中世仏教
⑫	1/15	"		民具の歴史（農具のうつつかわり）
⑬	2/12	"		犬山遊（歴史とその特徴）
自然観察会	4/24 6/5 7/23・24 9/23 11/6	小学生以上 一 般 " 親 子 小学生以上 一 般 小学生以上 一 般	30 30 50 30 30	百年公園・早春の草花 水生昆虫（津保川をさぐる） 蛭ヶ野湿原を中心とした動物・植物 秋に鳴く虫 百年公園・秋の植物
親子教室	5/3 5/29 8/14 8/21 11/23 12/4 12/11 12/18	親 子 " " " " " " "	30 40 40 40 40 40 40 40	やきものをつくろう（土器・皿・ツボなど） 拓本をとろう（基本技法・取拓） 火おこし器をつくろう 竹細工（筒・竹とんぼなど） 竹細工師 石原 文雄氏 ハンコ彫り（自分の名前前のハンコを彫る） 麻づくり（つくって揚げよう） 竹細工師 石原 文雄氏 版画（年賀状をつくろう） しめなわづくり ワラ細工師 大野 仁久氏
写生会	2/26	小学生以上 一 般		博物館資料を描く（甲冑・仏像・人形頭・哺乳動物、鳥など）
ふるさと探訪	9/18 11/13	親 子 ・ 一 般 "	37 37	土塚生れき岩と飛水峡などの見学 古墳をたづねて（野・柳成寺・大塚）
民俗芸能実演	5/8 10/2	一 般 "		関孫六太鼓ほか "
スタディ・コーナー （自然分野）	2か月ごとに展示替え （入館者対象）			石や土で作った道具（3・4月） 県内の魚たち（5・6月） アザミの仲間（7・8月） ふるさとの岩石＜火成岩＞（9・10月） 秋に鳴く虫とその仲間（11・12月） ドングリのなる樹（1・2月） ふるさとの岩石＜変成岩＞（3・4月）
日曜映写会	4/27～6/19 7/13～9/15 10/12～11/27	入 館 者		「ふるさとの湿原」（スライド） 「中山道を歩く」（16mm） 「中生代の化石」（スライド）

Ⅲ 昭和62年度のあゆみ

〔職員〕

職 名	氏 名	職 名	氏 名
館 長	森 崎 利 光	〔 学 芸 部 〕	
次 長	西 部 廉	学 芸 部 長	鳥 居 甚 吾
〔 総 務 課 〕		主任学芸主事(兼)人文係長	大 前 匡 昭
課 長	海老澤 吉 郎	学 芸 主 事	名 和 正 浩
庶 務 係 長	尾 野 元 啓	〃	尾 関 章
主 査 任 師	川 端 正 子	教 諭 (研 修)	川 瀬 善 忠
主 任 技 師	山 口 弘 子	学 芸 主 事	小 川 和 英
主任主査(兼)管理係長	林 作 男	主任学芸主事(兼)自然係長	曾 我 敏 男
主 事	吉 原 敏 彦	学芸主事(学芸員)	國 光 正 宏
業 務 嘱 託 員	伊 藤 武 嘉	学 芸 主 事	小 森 廣 光
〃	青 山 貴 子	学芸主事(学芸員)	安 藤 志 郎
〃	古 田 佳 子	学 芸 嘱 託 員	長 谷 川 道 明
〃	織 部 清 美	教 育 普 及 係 長	馬 淵 隆
〃	山 口 誉 里 子	教 育 主 事	今 井 雅 巳
〃	石 井 敬 子	学 芸 嘱 託 員	大 沢 淳 一
〃	佐 藤 育 栄	〃	青 木 修

〔日誌抄〕

人事異動	
退職 館 長	廣 田 照 夫
次 長	野 々 田 幸 雄
学芸嘱託員	鈴 木 功
転出 学芸部長	山 田 康 夫
主任学芸主事兼自然係長	中 野 敬 一
教育普及係長	石 田 興
学芸主事	平 田 公 二
転入 館 長	森 崎 利 光
次 長	西 部 廉
学芸部長	鳥 居 甚 吾
主任学芸主事兼自然係長	曾 我 敏 男
教育普及係長	馬 淵 隆
教 諭 (研 修)	川 瀬 善 忠
新任 学芸嘱託員	長 谷 川 道 明
6 2 年	
4. 1	「岐阜県博物館報」第 1 0 号発行
〃	「博物館だより」第 3 2 号発行

4. 3	出光美術館職員来館
12	日曜講座「三原山の噴火を考える」
22	特別展「濃飛の弥生時代」開場 (6月7日まで)
24	四館連絡会議
26	日曜講座「郷土の先土器時代」
29	自然観察会「百年公園の春の植物」
5. 2	名古屋市博物館職員来館
5	親子教室「火おこし器をつくろう」
10	日曜講座「庭や畑の雑草」
〃	民俗芸能実演「ふるさとの芸能と太鼓」
17	日曜講座「縄文から弥生へ」
24	特別展講演会「弥生から古墳へ」
25	全館害虫駆除消毒
31	自然観察会「津保川の水生昆虫」
6. 2	岐阜県博物館協議会
6	鹿児島県青年交歓会一行来館
7	親子教室「弥生土器をつくろう」



- 6. 14 日曜講座「ムシの世界」
- 28 日曜講座「水辺の植物」
- 〃 横浜市文化財調査委員一行来館
- 7. 1 「博物館だより」第3号発行
- 12 日曜講座「岩石とそのつくり」
- 15 特別展「外国から侵入した生きものたち」
(9月15日まで)
- 19 親子教室「拓本をとろう」
- 20 鳥取県立博物館職員来館
- 21 総務庁統計調査部職員来館
- 25.26 自然観察会「板取川上流の自然」



- 7. 26 日曜講座「古代の交通」
- 29 移動展「ふるさとの植物と動物たち」
(笠原町中央公民館8月9日まで)



- 30 「走る県政バス」一行来館
- 8. 2 特別展講演会「身近な帰化昆虫」
- 4 岐阜県大学図書館協議会一行来館
- 5 全国生物教育研究会岐阜大会一行来館

- 8. 5 神奈川県立博物館職員来館
- 〃 「走る県政バス」一行来館
- 7 岐阜県教育委員視察
- 9 日曜講座「帰化植物」
- 12 移動展「ふるさとの植物と動物たち」
(瑞浪市総合文化センター8月23日まで)
- 16 親子教室「竹細工」
- 23 日曜講座「帰化昆虫」
- 9. 1 ふるさと写真展「中山道の今昔」
(応募作品なく中止)
- 7 鳥取県立博物館職員来館
- 13 日曜講座「帰化動物」
- 20 自然観察会「秋に鳴く虫」
- 22 「走る県政バス」一行来館
- 23 ふるさと探訪「瑞浪、善師野の自然を訪ねて(化石・植物)」



- 27 日曜講座「variゆく植物社会」
- 30 東京都練馬区教育委員会職員来館
- 10. 1 「博物館だより」第34号発行
- 4 民俗芸能実演「ふるさとの芸能と太鼓」
- 〃 講演会「日本列島にゾウのいたころ」
- 7 特別展「飛驒の匠」開場
(11月23日まで)



- 11 日曜講座「薬草の効用」

- 10. 12 全館害虫駆除消毒
- 18 特別展講演会「飛驒の匠と高山祭屋台彫刻」
- 20 総理府人事課職員来館
- 21 埼玉県企画総務課職員来館
- 23 青森市森林博物館職員来館
- 25 日曜講座「徳山の歴史と文化」



- 29 三重県建築技術センター一行来館
- 11. 1 自然観察会「百年公園の秋の植物」
- 3 ふるさと探訪「中山道を歩く(東濃路)」
- 8 日曜講座「飛驒の匠の歩んだ道」
- 13 建設省市街地建築課職員来館
- 15 親子教室「木彫り」



- 16 岐阜県教育委員視察
- 17 浜北市教育委員会職員来館
- 19 台湾国立芸術学院教授来館
- 22 日曜講座「トンボの生活」
- 29 親子教室「凧づくり」



- 12. 6 親子教室「版画あそび」



- 8 栃木県立博物館職員来館
- 9 中国江西省文物展調印団一行来館



- 13 日曜講座「鋤物と私たちの生活」
- 15 資料紹介展「はかり」(1月31日まで)
- 20 親子教室「しめなわづくり」

63年

- 1. 10 日曜講座「はかりと歴史」
- 24 日曜講座「古代の美濃とムゲツ氏」
- 27 全館消防訓練
- 2. 14 日曜講座「野鳥を友に」
- 17 国立科学博物館職員来館
- 〃 資料紹介展「身近な資源—石灰岩—」(4月10日まで)
- 19 三重県員弁町教育委員会職員来館
- 22 岐阜県博物館協議会
- 26 秋田県立博物館職員来館
- 28 日曜講座「石灰岩と私たちの暮らし」
- 3. 4 山形県立博物館職員来館
- 13 日曜講座「濃飛のやきもの」
- 17 春日井市文化財保護審議会委員来館
- 22 全館害虫駆除消毒
- 27 日曜講座「明治時代における岐阜県の発電」
- 31 「岐阜県博物館調査研究報告」第9号発行

〔実施事業〕

本年度は、展示活動において例年並みの活動であったが、教育普及活動については、4月の初めから3月末まで実施した。より多くの県民の方々の参加を願ってのことである。しかし、参加総人数は1,341名で、昨年より減少した。参加しやすい時を考慮しての計画が必要であった。

展示活動

事業名	期間	主な展示内容
常設展		1階自然展示室は郷土の自然、2階人文展示室は郷土のあゆみと美術工芸を展示。刀剣コーナーは年4回展示替え。
〈特別展〉濃飛の弥生時代	4/22～6/7	県内出土遺物を中心に、弥生人の生活文化を総合的に展示紹介する。
“ 外国から侵入した生きものたち	7/15～9/15	県内で分布を広げている帰化植物を紹介する。
“ 飛騨の匠	10/7～11/23	建築、一位細工、巻簾壁、高山祭屋台彫刻の数々を紹介する。
〈資料紹介展〉はかり	12/15～631/31	社会生活に必要なはかりやその精度を測る道具などを展示する。
“ 身近な資源-石灰岩-	2/17～4/10	石灰岩のでき方、性質、含まれる化石、くらしとの結びつき等を紹介。
移動展	7/29～8/9 8/12～8/23	笠原町中央公民館 瑞浪市総合文化センター 県内にみられる植物や動物を押し葉標本や剥製標本で紹介する。

教育普及活動

事業名	期日	対象	定員	内容	参加人数
特別展講演会	5/24 8/2 10/18	一般		弥生から古墳へ 身近な帰化昆虫 飛騨の匠と高山祭屋台	146 78 62
講演会	10/4	一般		日本列島にゾウのいたころ 野尻湖友の会運営委員・酒向 光隆氏	28
①	4/12	一般		三原山の噴火を考える	6
②	4/26	一般		郷土の先土器時代 日本考古学協会員・吉田 英敏氏	130
③	5/10	一般		植物に親しむための入門講座① 庭や畑の雑草	28
④	5/17	一般		縄文から弥生へ	61
⑤	6/14	一般		ムンの世界	8
⑥	6/28	一般		植物に親しむための入門講座② 水辺の植物	19
⑦	7/12	一般		岩石とそのつくり(岩石の顕微鏡観察)	21
⑧	7/26	一般		ふるさとの古代Ⅰ 古代の交通	7
⑨	8/9	一般		帰化生物シリーズ① 植物	17
⑩	8/23	一般		“ ② 昆虫	12
⑪	9/13	一般		“ ③ 動物	17
⑫	9/27	一般		植物に親しむための入門講座③ 変わりゆく植物社会	3
⑬	10/11	一般		粟草の効用 内藤記念くすり博物館長・青木 允夫氏	34
⑭	10/25	一般		徳山の歴史と文化 郷土史研究者・大牧富士夫氏	39
⑮	11/8	一般		飛騨の匠の歩んだ道 高山市文化財審議会委員・八野忠次郎氏	41
⑯	11/22	一般		トンボの生活	14
⑰	12/13	一般		鉱物と私たちの生活	14
⑱	1/10	一般		はかりの歴史	13
⑲	1/24	一般		ふるさとの古代Ⅱ 古代の美濃とムゲツ氏	42
⑳	2/14	一般		野鳥を友に	14
㉑	2/28	一般		石灰岩と私たちのくらし	13
㉒	3/13	一般		濃飛のやきもの	10
㉓	3/27	一般		明治時代における岐阜県の発電 産業考古学会員・高橋伊佐夫氏	14
自然観察会	4/29 5/31 7/25・26 9/20 11/1	親子および一般	30 30 50 30 30	百年公園の春の植物 津保川の水生昆虫 板取川上流の自然 秋に鳴く虫 百年公園の秋の植物	22 25 38 15 14
親子教室	5/5 6/7 7/19 8/16 11/15 11/29 12/6 12/20	親子	40 40 40 40 40 40 40 40	火おこし器をつくろう 弥生土器をつくろう 拓本をとろう 竹細工 木彫り 凧づくり 版画あそび しめなわづくり	50 46 9 24 23 28 26 55
ふるさと探訪	9/23 11/3	親子および一般	40 40	瑞浪・善師野の自然を訪ねて 中山道を歩く(東濃路)	39 36
民俗芸能実演	5/10 10/4	一般		ふるさとの芸能と太鼓	
スタディ・コーナー (自然分野)	2か月ごとに展示がえ 入館者対象			古生代の化石(3・4月)ふるさとのチョウ(5・6月)庭や畑の雑草(7・8月)ふるさとの鉱物(9・10月)ふるさとのトンボ(11・12月) 紅葉する植物(1・2月)石や土で作った道具(3・4月)	
日曜映画会	4/22～6/7 7/15～9/15 10/7～11/23	入館者		「弥生時代の文化」(VTR) 「侵入する生物たち」(スライド) 「飛騨の祭と匠」(VTR)	1,683 1,290 3,660

〔常設展〕

(1) 刀剣コーナー

当館では、人文展示室2に刀剣コーナーを設け、美濃の刀剣を中心に展示している。例年4回の展示替えを行っているが、今期は特別展「飛驒の匠」開催のため第2期の資料を第3期まで継続して展示した。昭和62年度の年間展示資料は下記の通りである。

第 1 期	第 2 期・第 3 期	第 4 期
4月28～7月19日	7月21日～10月25日（2期） 10月27日～1月24日（3期）	1月26日～4月26日
刀 無銘 志 津	刀 無銘 志 津	刀 無銘 志 津
刀 無銘 直江志津	刀 無銘 直江志津	刀 無銘 直江志津
刀 銘 濃州赤坂住兼元	刀 銘 濃州赤坂住兼元	刀 銘 濃州赤坂住兼元
短刀 銘 兼 住	刀 銘 兼 道	太刀 銘 兼 光
脇指 銘 兼 景	刀 銘 大 道	太刀 銘 長谷部国信
脇指 銘 丹波守吉道	太刀 銘 波平行安	脇指 銘 丹波守吉道
槍 銘 相模守藤原政常	刀 銘 国 信	槍 銘 定 廣
太刀 銘 長谷部国信	槍 銘 同田貫信賀	お座敷なた

(2) スタディ・コーナー

動物・植物・地学の各分野毎に輪番で、学芸活動のさゝやかな発表の場として、トピック的な問題を取りあげたり、小さなテーマを設定して、学習コーナーとして活用しながら紹介している。

「古生代の化石」……………3～4月
化石の産地として日本でも有名な上宝村福地や、大垣市赤坂町金生山を中心に、古生代の化石を紹介。

「ふるさとのチョウ」……………5～6月
ギフチョウを含めて、身近なチョウを中心に、岐阜県に生息するチョウを紹介。

「庭や畑の雑草」……………7～8月
庭や畑には、嫌われている雑草が毎年同じように生える。このような雑草の種類や生育のメカニズムを紹介。

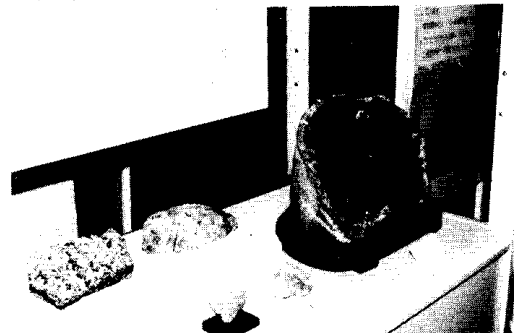
「ふるさとの鉱物」……………9～10月
岐阜県内の、全国的にも有名な鉱物の産地である中津川市苗木地方や、神岡鉱山などで採集された鉱物を中心に紹介。

「ふるさとのトンボ」……………11～12月
岐阜県に生息するトンボの仲間を、山岳・平地・湿地など生息地域別に実物標本で紹介。

「紅葉する植物」……………1～2月
モミジの仲間でも、赤く紅葉する種類から黄色に変化する種類までさまざまである。

紅葉の美しい実物標本を展示し、紅葉のメカニズムを紹介。

「石で作った道具」……………3～4月
私たちの祖先は、遠い昔から石を毎日の暮らしに利用してきた。石とそれで作った道具について紹介。



(3) 旧徳山村民家 移築復元

。 経 過

- 昭和60年 2月 宮川澄雄氏（当時揖斐郡徳山村戸入在住）から民家提供の申し出があり、県博としては徳山村有形民俗文化財収集の一環として移築復元することにする。
- 3月 第1回調査
- 5月 民俗文化財収集について徳山村と協議
- 9月 徳山村文化遺産等保存検討会（県教委文化課・県歴史資料館・県博物館・徳山村）
- 61年 5月 小寺武久氏（名古屋大学工学部助教授）に調査を依頼
- 9月 調査報告にもとづき移築復元の基本構想決定
- 62年 1月 第1期工事（解体・土地造成）完了

- 4月 徳山村閉村、藤橋村へ合併
- 9月 第2期工事（復元・付帯設備）完了
- 10月7日 完成式 1階部分を無料公開、2階部分は物置とする。

。 事業費

61年度	敷地造成費	6,600千円
	解体保管費	3,800
	かや購入費	3,600
	他	100
	計	14,100
62年度	修景工事費	300
	復元工事費	17,000
	他	778
	計	18,078
	合 計	32,178

。 展示方法など

資料約100点を、生活の実態がわかるように展示した。

(4) 自然展示室1 整備充実

開館以来12年目を迎え、自然科学の進歩はめざましく、研究成果をより正確に、しかも教育的に配慮した展示とするため、昭和62年度は、「自然展示室I」の一部を整備し充実を図った。

観覧者に興味・関心をひき起こさせるように、より立体的、動的展示に心掛けた一部の紹介。

・飛驒の山の大型写真を撤去し、大型のスクリーンに、ナレーション入りのマルチスライドで飛驒の山の四季を紹介。

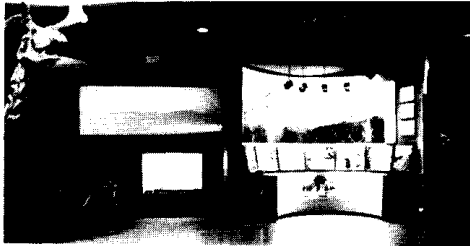
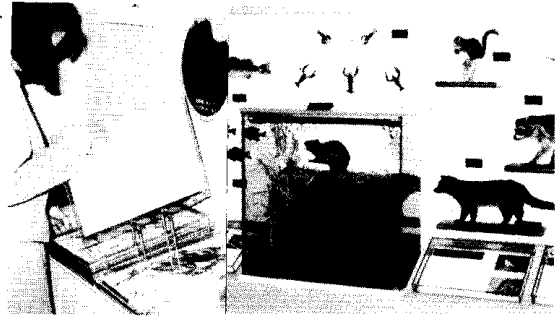
・乗鞍岳の背景の白黒写真をカラーに、生息している鳥の写真を全てはく製とする。高山植物のレプリカ12種を追加し、北アルプスに生息するハナカミキリ16種の標本で、高度差による分布の違いを展示。

・ふるさとの樹木の幹の展示を、木幹と実物標本の枝葉・実の連動で確認できるようにした。



・帰化植物、帰化動物のコーナーを新設した。

帰化植物をカラーコルトン、バインダー方式で標本を展示。帰化動物をジオラマ、はく製で代表的なものを展示。



〔特別展〕

(1) 濃飛の弥生時代

4月22日(木)～6月7日(日)

原始から古代へ、日本の歴史の画期に位置する弥生時代は、稲作・金属器の使用、布の衣服の着用など、後の日本の生活文化の基礎が築かれた時代であった。本展では県内で出土した考古資料を中心にその生活文化の移り変りを分りやすく展示紹介すると同時に、この時代において濃飛が東西文化の接点としての特色を明瞭に示したことに注目し、その視点に立脚した展示構成を行った。展示資料は1,000点を超えたが、その多くはこれまで未公開であったものが多く、それを一堂に会しえ、濃飛の弥生時代の概要を示しえたことが本展における最大の成果であったといえよう。

＜展示構成の概要＞

展示は、I. 大陸からの風、を導入部とし、II. 濃飛の弥生文化、III. 弥生人の祈り、IV. 大和王権の進出、V. 濃飛の弥生時代研究の先達、の5つのコーナーで構成した。

大陸からの風では、石庖丁を始めとする新しい石器、木材の活用、糸と布の活用、土器の変化や炭化米など、生活文化全般にわたる変化を出土遺物を中心に展示紹介した。またこのコーナーには、当館が試作した織機をはじめとする試作品の数々も展示した。また「東海への伝播」という小コーナーを設け、前期における遠賀川式土器と条痕文土器とを対比させることにより、東西文化の接点としての中部地方を浮彫りにさせた。

濃飛の弥生文化では、濃飛から出土した典型



的な前・中・後期の土器の展示を導入とし、西濃・中濃・東濃と飛驒の3地域に分け、各遺跡から出土した弥生土器を中心に展示した。また中濃地方では特に牧野小山遺跡に焦点をあて、尾張の朝日遺跡出土土器との対比を行い、美濃への弥生文化の到来を浮彫りにさせた。また、中部地方の弥生土器を代表する「パレススタイルの壺」の小コーナーを設け、県内出土の同土器を網羅した。

弥生人の祈りでは、土壇墓や方形周溝墓からの出土遺物や県内出土の銅鐸、銅鏡などを展示し、濃飛弥生人の精神生活の一端を紹介した。特に県内で出土している銅鐸の全て(5口)を一堂に会しえたことは、本展の成果のひとつであった。

大和王権の進出では、弥生土器の土師器への移行、県内最古の古墳とされる円満寺山古墳出土鏡などを通して、濃飛における弥生時代の終焉にふれた。

濃飛の弥生時代研究の先達では、戦前・戦後を通じ、この研究への先駆的役割をはたし、貴重な資料を収集した林魁一・小川栄一・江馬修の収集品、遺品などを展示し、その業績を紹介した。なお、本展にあたり御協力をいただいた個人、県内外の関係機関の方々のご配慮にこの場を借りて深く謝するものである。

＜関連事業＞

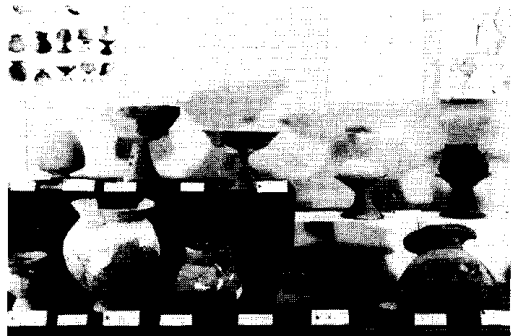
4/22(県博日曜講座)「郷土の先土器時代」日本考古学協会員
吉田 英敏氏

5/5(親子教室)「火おこし器をつくろう」

5/17(県博日曜講座)「縄文から弥生へ」

5/24(特別展講演会)「弥生から古墳へ」南山大学教授
伊藤 秋男氏

6/7(親子教室)「弥生土器をつくろう」



(2) 外国から侵入した生きものたち

7月15日(休)～9月6日(日)

アライグマ・ヌートリアなど中型の哺乳動物の話題が新聞に掲載されたり、イネの苗を食べるスクミリンゴガイのピンク色の卵が博物館へ持ち込まれたりされるようになった。一方、住宅地・河原などでは、今まで見られなかった植物が、在来の植物より美しい花を咲かせ、勢いよく分布を広げている。

人とかかわりの中で分布を広げている身近な帰化生物の実態は調査されていない。何年に岐阜に侵入したのか。その後、どのように分布を拡大していったのか、資料がないのが実情である。

今回の特展は、過去の特展「ふるさとの植物」における帰化植物調査や、資料紹介展「植物のルーツをさぐる」における北米からの帰化植物標本の紹介をふまえて行った。同時にアライグマの調査・ヌートリアの県内分布調査が進展していたこともあって、帰化生物展へと発展していった。

植物については、飛騨の帰化植物を調査されていた長瀬秀雄氏やメリケンカルカヤ・キダチコンギクの調査で東濃から飛騨まで調査された二村延夫氏に助けられた。動物では、梶浦敬一氏から、アライグマなどの資料を提供していただいた。また、NHKから、アライグマ、ヌートリアの映像資料の提供を受けることができた。

この特展を通して、帰化植物目録を作製できたことは大きな成果と考えたい。

<展示内容>

I 帰化生物の歴史

このコーナーでは、帰化植物の定義、稲とともに入ってきた農耕雑草といわれている植物、

ネズミやモンシロチョウなど人と共に分布を拡大していった生物、を展示する。展示が単調であるため、中心を伊吹山の葉草と飯沼慾齋に置き、ふるさとを強調した。

II 外国文化の流入と帰化生物

江戸末期以降に外国から侵入した生物を帰化生物として取り上げた。帰化植物は大型が多く、借用標本を直接パネルにはりつけ、植物がイメージ化できるように努めた。動物標本のほとんどは剥製展示とした。アメリカザリガニなどは、一匹だけでなく5～6匹配置した。

III 貿易拡大とともに侵入した生物

ここでは、植物と同時に、小さな昆虫を展示した。非常に数が多くなってきたが、一部をIVで取りあげた。

IV 注目すべき帰化生物

ヌートリアの生態ジオラマを自作した。この展示は、単に標本をならべるだけで終わってしまう構成に変化を与えた。

V 開発と帰化生物

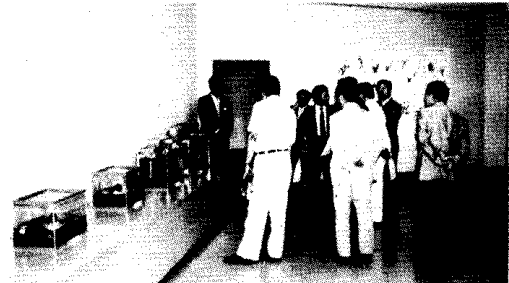
セイタカアワダチソウ・メリケンカルカヤ・セイヨウタンポポなどの分布の変化を通して、人といかにかかわってきたか考えさせようと試みた。

中央三角パネルでは、北米の資料を使用しながら、逆に北米へ帰化した生物の紹介をした。マメコガネの展示では、アメリカ農務省から資料を提供していただいた。

今回の特展期間中、ブルーギル・スクミリンゴガイなど7種類の帰化動物を飼育展示した。

広報活動としては、「外国から侵入した生きものたち」を20回にわたって新聞掲載した。

10年ごとに、このような展示を持つことも、ふるさとの変容を知る一方法であろうと考える。



(3) 飛驒の匠

10月7日(木)～11月23日(例)

飛驒の匠のおこりは遠く奈良時代にまでさかのぼる。律令で定められた庸・調などの税のかわりに、律令国家は、飛驒から1年に100人ほどの人々を宮殿や寺社の造営に差し出すことを定めた。都の人々はこの集団を「飛驒の匠」と呼ぶようになり、その名声は全国に広まった。

やがて律令制度の崩壊とともに匠の徴発はゆるんでいったが、その秀でた技は、後世の飛驒人にうけつがれ、さらに広い分野で磨きあげられてきた。

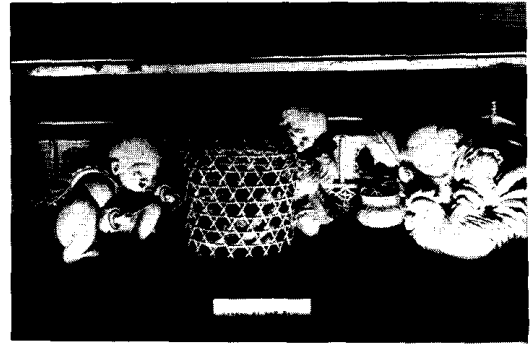
本特別展では長い伝統にかがやく飛驒の匠の歴史をたどりながら、今に残る技を実物資料や写真で5つのコーナーに分けて紹介した。

<展示のねらい>

コーナー	ねらい
(1) 匠のおこり	匠のおこりを紹介し、奈良・平安期の匠の様子を紹介する。
(2) 建築	中世以降多くの名匠が輩出した。寺院・民家等を中心とした彼らの業績を紹介する。大工・棟梁の道具や衣装の一部を紹介する。
(3) 一位細工と一刀彫	一位の由来と、いちいの木及び板物を中心とした一位細工を紹介する。
	松田亮長によって始められた一位一刀彫の歴史と、亮派代々によってうけつがれた作品の数々を紹介し、一刀彫の道具や彫りの工程についても紹介する。
(4) 飛驒春慶	400年近い歴史を誇る飛驒春慶の作品を時代順に紹介し、また木地や塗りの工程も紹介する。
(5) 高山祭屋台彫刻	江戸中期に始まったといわれる高山祭屋台は、斗と斗の間に趣向を凝らし、斬新なモチーフと、見事な表現技術を使った匠の魂の結晶といわれる。その彫刻の幾つかを紹介する。



▲「飛驒の匠」展示会場



▲高山祭麒麟台彫刻<唐子群遊>

<主な展示資料>

- (1) 匠のおこり 「飛驒の匠物語」(葛飾北斎さし絵・石川雅望著)、延喜民部式版本
- (2) 建築 藤原宗安像、木鶴大明神像、大工道具、棟梁の晴れ姿(衣装・儀式など)、久津八幡宮本殿及び高山東照宮棟札、久津八幡宮軒付「水呼ぶ鯉」、古川町五社神社「水呼びの鯉」、千鳥格子、稲荷社等
- (3) 一位細工と一位一刀彫 笏・短冊箱等一位細工、松田亮長の一刀彫・根付・旅日記、亮派代々の作品、一刀彫工程資料等
- (4) 飛驒春慶 成田三休の作品、江戸時代から明治期の作品、工法過程資料と諸道具等
- (5) 高山祭屋台彫刻 麒麟台・石橋台・恵比須台・五台山・琴高台、春の山王祭より5基の彫刻、谷口与鹿の屋台彫刻下絵等

<関連事業>

- ・講演会 10月18日(日)
 - ・講師 前高山市郷土館長 丸山茂氏
 - ・演題 「飛驒の匠と高山祭屋台」
- ・県博日曜講座 11月8日(日)
 - ・講師 高山市文化財審議会委員 八野忠次郎氏
 - ・演題 「飛驒の匠の歩んだ道」

期間中毎日曜日「飛驒の匠と屋台」「一位一刀彫」のビデオ及び「受け継がれる匠の技」等3本の16mm映画の上映をした。

本特別展では門外不出の高山祭屋台彫刻の展示他、松田亮長の一刀彫、高山市島川原町の稲荷社等所蔵者の多大な協力を得貴重な資料を初公開することができた。

展示・事業いずれも大好評であった。

〔資料紹介展〕

(1) はかり

〔12月15日(火)～1月31日(日)〕

「はかる」という行為は、古くから行われてきた。はかるための最初の単位は、一步の長さや、両手をひろげた長さなど、人の体を使ったものであったと考えられている。さらに農業や商業などが発達するにつれて、「はかる」ための器具である「はかり」が現れ、共通の計測単位が生まれてきた。

本資料紹介展では、岐阜県計量検定所などから寄贈を受けた館蔵資料を中心として、ものさし・枙・秤などの「はかり」や、「はかり」を検査する「はかり」などを紹介した。この展示により、日頃使い慣れた「はかり」を見直す契機になることを意図した。

<展示構成>

展示構成は、第1「はかる」・第2「ものさし一長さははかる」・第3「枙一量をはかる」・第4「秤一重さははかる」の4つのコーナーに分けた。

第1のコーナーでは、岐阜県計量検定所のメートル原器やキログラム原器をはじめ、度量衡法規・大正10年の計量展覧会出陳目録・はかり販売店が義務付けられていた販売先名簿などの文書関係資料、初期のタクシー料金メーター・圧力計の検査をするための基準分銅式標準圧力計・地震計などの度量衡以外の「はかり」資料を紹介した。また、パネル展示としては、古代エジプトの「死者を裁くはかり」や「身体を使った単位」・「生活における“はかる”基準」などを示した。これらの資料によって、「はかる」ことの意味を総合的に理解できるように配

慮した。

第2のコーナーでは、日頃使い慣れたものさしをとりあげた。ガラスをはかるために先端に金属がついている竹製直尺や、勾配の計算が簡単にできるなど応用範囲が非常に広い曲尺・はさみ尺などを紹介した。

第3のコーナーでは、最近あまり見かけなくなったが、かつては日常生活に大きくかかわっていた枙をとりあげた。天明5年の銘がある方形一斗枙をはじめ、穀用・液用の方形枙や円筒枙を紹介した。さらに、一般の人はほとんど目にすることがなかった、枙の検査用具（方形枙検査用具・円筒形枙検査用具・基準枙・容量比較器・検査用斗概など）も展示した。

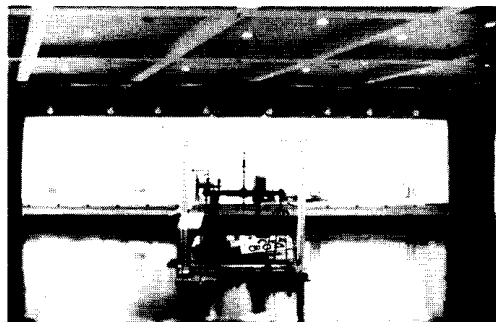
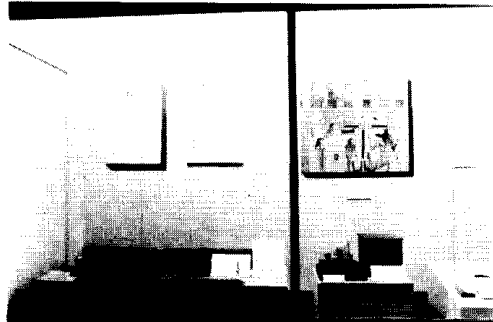
第4のコーナーでは、秤に関するものを取りあげ、大きく天秤とさお秤に分けて紹介した。天秤の所では、江戸時代に両替屋が使用したものをはじめ、実験や調剤用の上皿天秤・貴金属をはかる精密天秤・戦時中に製造された陶磁製のおもりをはかる検査用基準秤などを展示した。さお秤の所では、江戸時代のものをはじめ、種々のさお秤を展示した。また、各種の分銅（基準分銅・検査用織度分銅なども含む）やおもり（江戸時代の石のおもりも含む）もまとめて展示した。

フロアーでは、精度0.1gの大型の基準天秤（明治時代のもの）などを展示した。

<関連事業>

- ・1月10日に県博日曜講座18で「はかりの歴史」を実施した。
- ・小冊子「はかり」発刊、配布。

なお、この展示を実施するにあたり、岐阜県計量検定所には、大変お世話になった。



(2) 身近な資源 石灰岩

—セメントからはみがきまで—
(2月17日～4月10日)

私たちの祖先は、古くから建築物や、工芸品などの資材として、石灰岩を利用し、今日の文明を築いてきた。

現在では、私たちの生活から切り離すことができないセメントの主原料や、鉄鋼の副原料のほか、ガラス・薬品などの日用品をはじめ、肥料や飼料などに広く使われている。

今回の資料紹介展では、石灰岩の特徴、石灰岩中に含まれている化石、石灰岩地帯を好む生物、くらしの中の石灰岩について紹介した。身近な資源として大切な石灰岩について考え、さらに、ふるさとの自然を理解する一助となることを意図した。

<展示内容>

◎いろいろな岩石

全体の導入として、種々の火成岩、堆積岩、変成岩を展示し、その中で、石灰岩、結晶質石灰岩がどこに位置づけられるかを紹介した。

◎石灰岩の特徴

種々の石灰岩や苦灰岩、石灰質角礫岩、珪灰石等を展示するとともに、石灰岩の性質について紹介した。さらに、石灰岩の性質に関連させ石灰華と木の葉石、鍾乳石、方解石等について展示し、石灰岩の性質のその特徴について紹介した。

◎石灰岩と化石

ウミユリ、ハチノ巣サンゴ、フズリナなど、石灰岩中に含まれる化石を展示し、石灰岩とふるさとの化石について紹介した。



▲ 展 示 風 景

◎石灰岩地帯を好む生物

石灰岩地域に生育するシダ植物やそこにすむマイマイなど、アルカリ性の土を好む生物について紹介した。

◎石灰岩の利用

セメントをはじめ、いろいろなところに石灰岩が利用されていることを紹介し、石灰岩が身近な資源として重要であることを解説した。

◎中央には、自作偏光顕微鏡を10台設置し、岩石プレパラートの観察ができるようにするとともに、結晶質石灰岩等の岩石を配置し、触れることができるようにした。また、解説書(手づくり)を無料で配布し、展示では解説できない部分を補った。

<関連事業>

資料紹介展開催中の関連事業として、「石灰岩と私たちのくらし」というテーマで県博日曜講座を行った。展示とからんだ講座、教室は極めて有意義な活動であると思う。

そのあらわれの一つとして、土岐市のSさんから寄せられたハガキの文面を紹介する。

前略

先日は「石灰岩と私たちのくらし」というテーマで楽しいお話をしていただき、ありがとうございました。

私にとって大変勉強になりましたことは、次の点です。

- ・鼠石^{ロウシ}岩・白石岩・ドロマイト・珪灰岩・螢石などの粉末はなじみがありますが、これを原石の状態で見ることができたこと。

- ・少ない予算をやりくりして創意工夫し、手製の偏光顕微鏡をいくつも作られて、鉸物を一般の人に親しみのもてるものにしようとしておられる情熱。

- ・石灰岩で構成されている地域とシダとは縁が深いということを知ったこと。昔、中国では石灰岩とほうびそう(シダの一種)とを重ねて焼いて釉薬の原料の一種としました。

- ・実験に使用された石灰岩が、約2億3千万年前のものであること。

まずは、お礼まで

草々

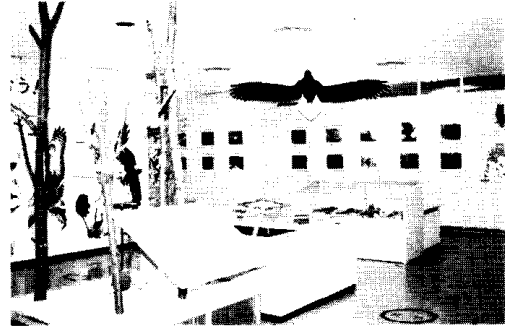
〔その他の展示〕

(1) 野鳥展 (4. 26～5. 24)

日本野鳥の会・岐阜県支部では、毎年5月のバードウィークを中心に野鳥展を開催し、野鳥の保護と自然に親しむ啓蒙活動を続けてきた。今年は、支部創立20周年を迎え、一人でも多くの方に野鳥のすばらしさを知っていただきたいとの考えから、岐阜県博物館を会場として企画・展示された。「この鳥を救おう」とのテーマで、会員の撮影した生態写真や手づくりのパネルで会場構成をした。ミニサンクチュアリやジオラマ(デゴイ)も立体的な展示で、多くの人の関心を集め大好評であった。

- 県内各地の探鳥案内 8ヶ所
- 野鳥写真 30点
- ミニサンクチュアリ 庭のモデル
- カスミ網 パネル
- 野鳥クイズ パネル

マで、会員の撮影した生態写真や手づくりのパネルで会場構成をした。ミニサンクチュアリやジオラマ(デゴイ)も立体的な展示で、多くの人の関心を集め大好評であった。



施した。

各新聞も意欲的に取りあげてくれた。来館者にも非常に好評であった。

(2) 飯田逸博氏寄贈展 (10. 20～11. 23)

飯田逸博氏は、日本昆虫学会、岐阜県昆虫分布研究会など昆虫関係の諸団体に属し、中学生の頃より蝶の採集・研究を続けてこられた。昭和61年9月死去され、これまで30年間に採集された大量の標本が残された。40才であった。氏の標本の特徴は県内各地を歩き、地区ごとに整理されていることである。特に岐阜市の蝶は、今後の資料として貴重である。兄岡昌氏の好意により、岐阜市の蝶を中心に標本箱にして34箱、約3000点の寄贈を受けた。寄贈標本を中心に、飯田逸博氏の紹介を含め展示会を実施した。



○自然観察のこみち整備充実

自然観察のこみちは、博物館のピロティーから職員駐車場まで、全長およそ600m。アカマツの自然林や雑木林のなかをくぐり、里山の豊かな自然にふれられるよう設けられている。

入口が目立たぬため、今回博物館の玄関階段下から、マンサクの林を経て既設のこみちまで、230m延長した。この整備事業は岐阜農林高校の林業科・加茂農林高校の林業科の生徒が、校外実習を兼ねて作業を担当してくださった。また樹木伐採後の遊歩道の整備は、昭和建物管理の岸二郎氏の献身的な努力によるものである。

3月4日には、全職員でサクラ・カエデ等60本の植樹をした。



〔調査研究・資料収集活動〕

（自然部門）

動物分野

- 帰化動物分布調査及び資料収集
12科13種を確認した。
帰化動物分布のアンケート調査では、猟友会、漁業協同組合、小・中学校教諭の協力を得る。いずれも特別展「外国から侵入した生きものたち」で発表した。
- 湿原の調査及び資料収集
岐阜県内の湿原を調査し、湿原で見られる動物の調査及び資料収集を行った。

〈収集した主な標本〉

クロサンショウウオ、イモリ、ネズミ類、トンボ類、ヒメタイコウチ、ネクイハムシ類など。
トンボは40種を確認した。ヒメタイコウチ、ネクイハムシ類については、詳しい分布調査を行った。

- 笠ヶ岳連峰（吉城郡上宝村）の昆虫調査
前年度に引続き笠ヶ岳連峰に生息する昆虫類の調査を行った。今年は、高山性ハナカミキリ（カミキリムシ科）の調査に重点を置き、その成果の一部を常設展示に発表した。
また、昨年までの調査で発見されたハネカシ科の新種が、渡辺泰明氏、沢田高平氏によって記載され、タイプ標本が収蔵された。

- 旧徳山村（揖斐郡藤橋村の一部）の昆虫標本
前年度に引続きダム建設にともなって湖底に沈む旧徳山村の昆虫調査、資料収集を行った。

植物分野

- 帰化植物分布調査及び資料収集
40科212種を確認し、岐阜県内の分布の概要を把握する。その結果を、特別展「外国から侵入した生きものたち」で発表した。
収蔵標本を目録として出版した。
帰化植物スライド200点を収蔵する。
本調査で飛騨地区は長瀬秀雄氏、二村延夫氏、西濃地区は広田艶子氏の協力により調査を進めることができた。
- 湿原植物調査及び資料収集
岐阜県内の湿原を調査し、湿原に生育する植

物の調査及び資料収集を行った。

岐阜県内湿原植物の分布を明らかにすると共に、未調査であったミズゴケ相の研究を行い、ミズゴケ相を明らかにした。

本調査は飛騨地区は長瀬秀雄氏、二村延夫氏、東濃地区は加藤寿朗氏の協力で進めることができた。

- 加茂郡における社叢林の調査
ムササビの生息環境としての社叢林を調査、併せて食性樹種の判定を実施した。結果は研究報告書に記載する。

地学分野

- 笠ヶ岳連峰の地形調査及び岩石採集
前年度に引続き調査と採集及び地形写真撮影を行った。特に、双六岳カールの測量を行い、杓子平カールとの比較検討を行った。
- 共同研究「岐阜県大野郡白川村馬狩大窪沼の成因と自然保護」についての調査
大窪沼周辺の地形、地質及び岩石採集、地形等の写真撮影を行った。更に、新しく珪藻から考えられる沼の環境について調査項目を設け、調査を行った。
- 大黒谷（大野郡荘川村）の中生代白亜紀手取層群の化石調査及び収集
この調査は、最近石川県白峰村で恐竜の歯や足跡の化石が発見されたことに関連して、同じ手取層群の分布地である荘川村尾上郷周辺で行ったものであるが、いまのところ目立った発見はない。
- 旧徳山村の地質調査及び磯谷地区の化石採集
磯谷地区は、美濃帯中・古生層の成因を調べる上で重要な地域と思われるので、今後詳しい調査を行いたい。



▲ 化石の採集

・福地地域（吉城郡上宝村）の調査及び化石採集古生代デボン紀～二畳紀の動物化石を中心に、東京大学教養部浜田隆士教授の指導で調査及び収集を行った。

金白谷、空山などの地点において、海縁・床板サンゴ、腕足類、三葉虫などの動物の化石およそ100点を収集した。

	蔵			借用	寄託	計
	実物	複製	移管・自作その他			
動物	26,851	16	164 (14,634)	15	0	27,046
植物	7,317	35	190 (5,075)	0	0	7,542
岩石・鉱物	1,971	5	73 (513)	20	3	2,072
化石	1,836	31	22 (1,033)	47	19	1,955
その他	57	22	168 (15)	0	0	247
計	38,032	109	617 (21,270)	82	22	38,862

複製には模型・ジオラマを含む（昭和63年3月31日現在）

資料寄贈者芳名一覧（敬称略・順不同）

資料名	点数	芳名	資料名	点数	芳名	資料名	点数	芳名
フクロウ	1	福井 強志	コウベモグラ	2	後藤 正	オニフスベ	1	宮崎 信子
ハクビシン	1	清水 匡	トビ	1	中部電力	ノウタケ	1	杉山 定一
タイワンリス	2	倉野 新蔵	ホンドタヌキ	2	長瀬 敦久	カワノリ標本	40	大地 登
テン	1	熊崎 詔之	キジ	1	福岡 千里	(故大地昂太郎資料)		
ムササビ	1	荒井 浩	モズ	1	三和小学校	藓苔類標本	約5000	川瀬 仙吉
沖繩産陸貝他	136	宮崎 惇	ヤマシギ	1	川瀬 慈	カン類標本	200	渡部芳朗他
ホンドタヌキ	1	藤井 広一	ヒヨドリ	1	渡辺 桂子	(県内分布資料)		
ヒミズ	2	村井 敏郎	アライグマ	1	今井小学校	湯ヶ峯黒雲母	4	宮崎 惇
ニホンザル他	5	山田 照男	カワラヒワ・カヤクグリ	2	亀山 力造	安山岩他	2	山下 昌毅
ホンドイタチ	1	大沢 眞美	ホンドイタチ	1	加藤 寿朗	紫水晶	2	海綿化石
ホンドイタチ	1	塩田 正平	ホンドイタチ	1	今井 雅巳	海綿化石	2	児子 修司
ホンドイタチ	1	平野 友重	キクイタダキ	1	日比野安和	鍾乳石他	3	大橋 外吉
ホンドイタチ	1	矢橋 真	ニホンキジ	2	清水 忠	方解石	1	神岡鉦業(株)
スズメ	1	亀山 幸子	カメ	2	橋本 隆子	珪化木	1	水野 史郎
スズメ	2	山田 良司	ヒレンジャク	1	宮野 昭彦	石灰岩石材他	16	博 石 館
貝殻橋出土貝類他	42	大垣内 宏	コシアカツバメ	1	飯田 囀昌			
キジバト	1	大野栄次郎	チョウ類他	3,000	船越進太郎			
コシアカツバメ	1	後藤 常明	アメリカシロヒトリ	5	柴田 佳章			
コシアカツバメ他	4	千藤 克彦	県内産蛾類	535	宮野 昭彦			
ウシガエル・フナ	2	中島 正宏	南西諸島産甲虫類	335	高井 泰			
鳥の巢	4	高橋 敏郎	ヤマムユガの卵	3	森 貴久夫			
アオバズク	1	寺本 康信	淡水魚類	8	加藤 宜明			
ニホンジカ	1	千田 邦好	帰化植物標本他	134	長瀬 秀雄			
ニホンジカ	2	市村 幹三	シダ植物標本	129	二村 延夫			
ヌートリア	1	中島 基貴	帰化植物標本	60	広田 艶子			
アカエリヒレアシシギ	1	井川満理子	シダ植物標本	100	栗田 郁男			
ホンドタヌキ	1	村瀬 正成	オニバス他	45	宮崎 惇			



▲ 寄贈資料の一部

(人文部門)

	館 蔵				借 用	寄 託	計
	実 物	複 製	その他	(寄 贈)			
考 古	1,987	166	52	1,791	593	185	2,987
歴 史	1,063	31	122	1,050	303	13	1,532
民 俗	1,779	1	9	1,779	0	19	1,808
美術・工芸	225	17	37	170	259	1,149	1,687
そ の 他	0	0	0	0	0	1	1
計	5,054	215	220	4,790	1,155	1,367	8,011

複製には模型・ジオラマを含む(昭和63年3月31日現在)

1. 資料寄贈者芳名一覧表(敬称略・受入順)

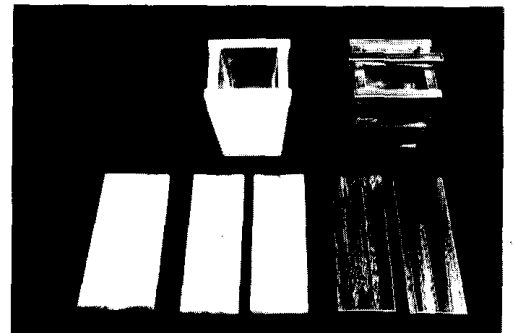
具足・胴着・鞍 他	96	竹 腰 欣 子
張 場 ・ 錢 枿	3	平 田 省 三
頭書類語小学女用文他	2	西 部 廉
紛 本	1	小 島 茂
巻きたばこ製作器他	3	宮 崎 惇
棹	1式	宮 崎 惇
手廻し式ワラ打ち器	1	町 野 金 以 知
古 錢	83	早 川 要
煙 管 他	26	野 田 準 二
子供の晴着他	26	廣 田 照 夫
春慶塗工程見本板	1	県工芸試験場
仏 壇	1式	岩 菅 光 男
一位一刀彫工程	5	津 田 亮 定
高 札	1	後 藤 博
飛驒春慶「つるべと花器」工程	1式	飛驒春慶連合協同組合
は かり 他	47	伊 藤 康 世
基準分銅式圧力計	1式	県計量検定所
はかり関係書籍他	33	
年中行事関係資料	2	伊 東 久 之
鬼 の 面	1	高 野 功

氏のご好意により、一刀彫工程資料を寄贈いただいた。イチイ材五工程(木取り一型抜き一荒彫り一中彫り一仕上げ)の資料である。



・ 飛驒春慶「つるべ花器」工程資料

飛驒春慶は、昭和50年国の伝統的工芸品として通産大臣から指定を受けている。「批目」・「割目」などが代表的な木地であるが、特別展「飛驒の匠」に出品いただいた資料の中から、飛驒春慶連合協同組合理事長、岩本喬氏の御好意により、「割目」の「つるべ花器工程資料」を寄贈いただいた。さわら材四工程(木地一→下塗り→摺り→上塗り)の資料である。



2. 新館蔵資料紹介

・ 一位一刀彫工程資料

飛驒の一位一刀彫は、昭和50年国の伝統的工芸品として通産大臣から指定を受けている。昭和62年度秋季特別展「飛驒の匠」において一位一刀彫の紹介をした。出品いただいた資料の中から飛驒一位一刀彫協同組合理事長：津田亮定

・斎藤義龍画像

当館の画像の複製計画は、代表的な武将の肖像画を製作することになっているが、本年度は斎藤義龍の肖像画を製作した。



本資料の原像は岐阜市常在寺所蔵のもので、義龍の子龍興が寄進したものと言われる。昭和50年斎藤道三画像と共に国重要文化財に指定されている。

義龍像は、上畳に端座した姿が丹念に描かれ、画像の中央には「南無妙法蓮華經」の名号が、下段の右側に「前左京地

雲峯玄龍居士」が記され、さらに左側に「永□四年辛□五月十一日」と没年月日が銘記されている。

・糸緋威二枚胴朱具足・黒塗紺糸威背割試具足
両資料共、竹腰正夫氏（尾張藩附家老・今尾藩主竹腰氏の末裔）の夫人欣子氏より寄贈いただいたものである。

両資料共竹腰家伝来のもので、糸緋威二枚胴朱具足には、下記の由緒書がある。

「慶長十九年甲寅十二月大坂之役石川主頭忠綱陣営近今橋四町許時之城兵放鉄砲1急矣。

正信君有事而到忠綱陣営時吾兵殆及狼狽正信君見之把所持之、鉄砲六挺更放之城兵為之辟易侍臣中西権之助調玉去婦後忠綱以使者贈朱塗甲冑一領謝之次歲夏役着之発軍

右三信君侍臣稲葉徳右エ門所筆記者也」

甲は朱塗日根野頭形、胴は朱塗横剣二枚胴、小手、下散（草摺）、佩楯、臈当とも朱塗の甲冑で、桃山時代末期に製作された実戦的な「当世具足」であり、原型をとどめた資料価値の高いものである。またこの具足は、試具足を兼ねて製作したものであり、他と比較して著しく重い具足である。



▲糸緋威二枚胴朱具足 ▲黒塗紺糸威背割試具足
黒塗紺糸威背割試具足には、下記の記録がある。

「大坂夏御陣之時道輝君ニハ背割之具足エツルノ差物瀬田ト云ル馬ニ召シ真田崩レヲ御乗廻人数ヲマトメ尾張流ヲ引具シテ大旗ヲ馬前ニ建サセ天王寺口ヲ御乗アゲニ相成武者振ヨシテ御軍濟後モ評判セント也」

胴は背割横剣五枚胴で各段に弾痕がある。すなわち前胴5発、後胴7発、右胴2発・左胴2発の計16発にのぼる弾痕があり、試しに用いた具足であると思われ、製作年代は江戸初期のものである。甲は74間小星甲で、鉢は戦国期のものを使っている。背中で引合わせる背割という非常にめずらしいものである。

・鬼の面

これは吉城郡宮川村の高野功氏より寄贈された。面というよりも、35cm×7cmの板に鬼の顔を描き、その下に平年は12本、うるう年には13本の線をひいたものである。高野氏はこの面を毎年節分の時に、12～13個作成し、家の周囲に置き、子供に取らせる。なお高野家ではこの面を用いて、特徴ある節分行事を毎年行っている。



〔教育普及活動〕

1. 概 略

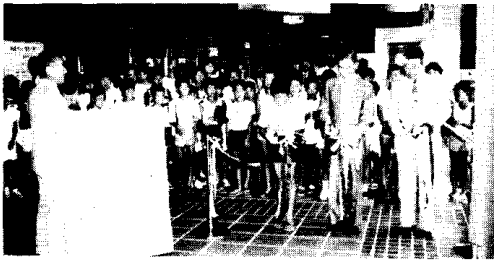
県民の生涯学習の場として、様々な要求にこたえるべく、多彩な催しものを企画・実施した。博物館ならではの普及活動に努力したが、入館者数・催しもの参加者数のみからすれば、減少傾向をくいとめることは成し得なかった。PR活動に一層の工夫が必要であろう。しかしなが

ら類似施設が、同様な、もっと大がかりな企画を打ち出す以上、百年公園の豊かな自然に恵まれ、自然・人文を併せもつ総合博物館としての独創的な活動が求められているようにも思われる。

図書資料は例年に増して、貴重な資料の寄贈を受けた。

2. 移 動 展

「ふるさとの植物と動物たち」というテーマで、笠原町・瑞浪市で実施した。



- 笠原町中央公民館 7.29(水)～8.9(日)
 - ・入場者数 2,249名
 - ・ふるさと教室 7.30(木)
- 瑞浪市総合文化センター 8.12(水)～8.23(日)
 - ・入場者数 3,518名
 - ・ふるさと教室 8.15(土)

両会場とも近代的な設備の整った素晴らしい会場であり、教育委員会の熱心な活動により大盛況であった。今年から加えた「魚」も好評だった。

3. 資料貸出し

他館での展示会、研究会、学校での教材等に貸出した主な資料。

<人 文>

- 奈良県立美術館 (4.15～6.15)
 - ・稲葉一鉄所用甲冑 1領
 - ・戸田公所用甲冑 1領
- NHK (63.2.18～4.24)
 - ・戸田公所用陣羽織 1枚
- 岐阜市歴史博物館
 - ・薬製品等 32点 (7.18～8.26)
 - ・十六銅鐸 1口 (10.1～11.30)
 - ・江馬細香画他 7点 (63.3.5～4.5)
- 岩村町史民俗資料館 (11.1～11.24)
 - ・佐藤一斎書 5点
- ぎふ百年のあゆみ展実行委員会 (中日新聞)
 - ・はかり関係資料 22点 (8.7～8.19)
- 岐阜県自動車税事務所
 - ・祭り関係パネル 4点 (7.1～9.30)
- 岐阜地区市民生活協同組合
 - ・祭り関係パネル 26点 (11.26～12.1)
- 羽島市歴史民俗資料館
 - ・薬製品 12点 (63.3.15～5.15)

<自 然>

- 鳥取県立博物館 (7.20～9.7)
 - ・デスマスチルス全身骨格レプリカ 1点
- 伊自良村歴史民俗資料館 (7.16～9.16)
 - ・岩石およびパネル 52点
- 神戸町中央公民館 (7.20～9.14)
 - ・岩石およびパネル 50点
- 関市瀬原小学校 (11.21～11.28)
 - ・魚の化石 8点
- 日本生物教育全国大会 (7.27～8.5)
 - ・笠ヶ岳の生物—昆虫・植物等 200点
- 少年科学センター (4.23～5.22)
 - ・ゲンゴロウ タガメなど 12点
- 加茂高等学校 (9.5～9.9)
 - ・モモンガ、ムササビ、テン剥製 3点
- 美濃加茂市太田公民館 (63.3.11～3.27)
 - ・ふるさとの魚標本およびパネル 150点
- 丹青社 (12.16～12.26)
 - ・植物、動物スライド 87点

〔図書資料寄贈者芳名一覧〕

(昭和62年4月1日～

昭和63年3月31日)

〔博物館関係〕

国立民族学博物館
 国立歴史民俗博物館
 国立科学博物館、附属自然教育園
 東京国立博物館
 東京国立近代美術館
 京都国立博物館
 憲政記念館
 岐阜県美術館
 岐阜県歴史資料館
 岐阜県立図書館
 岐阜市歴史博物館
 内藤記念くすり博物館
 大垣市郷土館
 大垣市歴史民俗資料館
 瑞浪陶磁資料館
 瑞浪市化石博物館
 高山市郷土館
 飛騨自然博物館
 アイヌ民俗博物館
 小樽市博物館
 札幌芸術の森
 斜里町立知床博物館
 苫小牧市博物館
 市立函館博物館
 標津町歴史民俗資料館
 北海道開拓の村
 北海道開拓記念館
 穂別町立博物館
 青森県立郷土館
 八戸市博物館
 岩手県立博物館
 岩手県立農業博物館
 大船渡市立博物館
 仙台市博物館
 仙台市歴史民俗資料館
 東北歴史資料館
 鹽竈神社博物館
 秋田県立博物館
 秋田大学鉱山学部附属鉱業博物館
 山形県立博物館
 山形大学附属博物館
 須賀川市立博物館
 会津民俗館
 致道博物館
 福島県立博物館
 福島市児童文化センター
 栃木県立しもつけ風土記の丘資料館
 栃木県立博物館
 小山市立博物館
 茨城県歴史館
 群馬県立近代美術館
 群馬県立歴史博物館

浦和市立郷土博物館
 埼玉県立近代美術館
 埼玉県立さきたま資料館
 埼玉県立自然史博物館
 埼玉県立博物館
 埼玉県立民俗文化センター
 埼玉県立歴史資料館
 戸田市立郷土博物館
 館山市立博物館
 君津市立久留里城址資料館
 千葉県立安房博物館
 千葉県立大根博物館
 千葉県立上総博物館
 千葉県立総南博物館
 千葉県立房総風土記の丘
 千葉県立房総のむら
 千葉市加曽利貝塚博物館
 成田山靈光館
 船橋市郷土資料館
 足立区立郷土博物館
 大田区立郷土博物館
 家具の博物館
 神奈川大学日本常民文化研究所
 紙の博物館
 古筆学研究所
 西武美術館
 渋谷区立松濤美術館
 品川区立品川歴史館
 サントリー美術館
 東京都高尾自然科学博物館
 豊島区立郷土資料館
 八王子市立郷土資料館
 町田市立博物館
 目黒区美術館(準備室)
 府中市郷土の森
 たばこと塩の博物館
 毎日学校美術館
 明葉資料館
 郵政省通信博物館
 国際基督教大学博物館
 湯浅八郎記念館
 東京農工大学工学部附属繊維博物館
 国学院大学文学部考古学資料館
 東京農業大学農業資料室
 明治大学商品陳列館
 明治大学考古学博物館
 神奈川県立博物館
 神奈川県立自然保護センター
 神奈川県立金沢文庫
 鎌倉国宝館
 川崎市青少年科学館
 川崎市産業文化会館
 茅ヶ崎市文化資料館
 根岸競馬記念公苑馬の博物館
 箱根町立大涌谷自然科学館
 平塚市博物館

船の科学館
 横須賀市博物館
 横須賀市人文博物館
 横浜市美術館開設準備室
 横浜海洋科学博物館
 相川郷土博物館
 柏崎市立博物館
 長岡市立科学博物館
 石川県白山自然保護センター
 石川県立美術館
 石川県立歴史博物館
 小松市立博物館
 福井県立博物館
 福井県立若狭歴史民俗資料館
 福井市立郷土歴史博物館
 福井市立郷土自然科学博物館
 富山市科学文化センター
 富山市考古資料館
 山梨県立考古博物館
 山梨県立美術館
 愛知県陶磁資料館
 愛知県文化会館
 熱田神宮宝物館
 一宮市博物館
 稲沢市荻須記念美術館
 おかざき世界子ども美術博物館
 昭和美術館
 瀬戸市歴史民俗資料館
 豊橋市美術博物館
 日本モンキーセンター
 名古屋市博物館
 名古屋市見晴台考古資料館
 名古屋大学総合研究資料館
 半田市立博物館
 博物館明治村
 鳳来寺山自然科学博物館
 三好町立歴史民俗資料館
 リトルワールド
 大町山岳博物館
 上高地自然教室
 信濃町立野尻湖博物館
 長野市立博物館
 松本市立博物館
 久能山東照宮博物館
 静岡県立美術館
 静岡市立登呂博物館
 下田海中水族館
 東海大学海洋科学博物館
 東海大学自然史博物館
 沼津市明治史料館
 沼津市歴史民俗資料館
 浜松市博物館
 富士市立博物館
 富士美術館
 ベルナルル・ビュフェ美術館

焼津市歴史民俗資料館
海の博物館
尾鷲市立中央公民館郷土室
日本カモンカセンター
藤原岳自然科学館
滋賀県立近江風土記の丘資料館
滋賀県立琵琶湖文化館
市立長浜城歴史博物館
京都市考古資料館
京都府立総合資料館
京都府立丹後郷土資料館
思文閣博物館
霊山歴史館
大阪市立博物館
大阪市立自然史博物館
大阪市立東洋陶磁美術館
大阪市立電気科学館
大阪人権資料館
堺市博物館
神戸市立博物館
兵庫県立歴史博物館
橿原市千塚資料館
奈良県立美術館
奈良県立民俗博物館
大和文華館
和歌山県立自然博物館
和歌山市立博物館
岡山県立博物館
笠岡市立竹喬美術館
倉敷市立自然史博物館
津山洋学資料館
津山科学教育博物館
市立津山郷土館
巖島神社宝物館
新市町立歴史民俗資料館
日本はきもの博物館
広島県立歴史民俗資料館
広島市安佐動物公園
宮島町立宮島歴史民俗資料館
秋吉台科学博物館
山口県立博物館
倉吉市立倉吉博物館
鳥取県立博物館
徳島県博物館
香川県自然科学館
讃岐民芸館
愛媛県立博物館
瀬戸内海歴史民俗資料館
松山市立子規記念博物館
北九州市立考古博物館
北九州市立自然史博物館
北九州市立児童文化科学館
北九州市立歴史博物館
福岡市博物館建設準備室
佐賀県立博物館
長崎県立美術博物館

大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館
別府大学附属博物館
宮崎県総合博物館
熊本県立美術館
鹿児島県立博物館
鹿児島県歴史資料センター黎明館
鹿児島市美術館
名護博物館

〔博物館協会〕

日本博物館協会
全日本博物館学会
全国科学博物館協議会
東海地区科学施設協議会
埼玉県博物館連絡協議会
静岡県博物館協会
神奈川県博物館協会
愛媛県博物館協会
広島市動物園協会

〔役所関係〕

岐阜県商工課
可児市役所
関市役所
各務原市役所
土岐市役所
板取村役場
伊自良村役場
高富町役場
多治見市社会教育センター
萩原町役場
平田町役場
古川町商工観工課
古川町文化協会
岐阜市民会館
岐阜市文化センター
大垣市文化会館
多治見市文化会館
美濃加茂市文化会館
川島町民会館

〔教育委員会関係〕

岐阜県教育委員会
岐阜県教育センター
岐阜県同和教育協議会
岐阜県文化課
岐阜県小中学校校長会
岐阜県PTA連合会
夏、冬の友編集委員会
岐阜市教育委員会
大垣市教育委員会
関市教育委員会
美濃加茂市教育委員会
可児市教育委員会
高山市教育委員会

中津川市教育委員会
御嶽町教育委員会
白鳥町教育委員会
坂下町教育委員会
穂積町教育委員会
古川町教育委員会
藤橋町教育委員会
美並村教育委員会
河合村教育委員会
徳山村教育委員会
洞戸村教育委員会
丹生川村教育委員会
久瀬村教育委員会
笠松町社会教育視聴覚協議会
根室市教育委員会
八戸市教育委員会
いわき市教育委員会
岩手県文化振興事業団
川崎市教育委員会
相模原市教育委員会
東京都教育委員会
新島本村教育委員会
福生市教育委員会
世田谷区教育委員会
千葉県教育委員会
山梨県教育委員会
韮崎市教育委員会
浜北市教育委員会
一宮市教育委員会
岡崎市史編さん委員会
幸田町教育委員会
豊橋市教育委員会
水口町教育委員会
鯖江市教育委員会
滋賀県教育委員会
藤原町教育委員会
京都市教育委員会
尼崎市教育委員会
西紀、丹南町教育委員会
豊中市教育委員会
広島市教育委員会
松山市教育委員会
福岡市教育委員会
長崎県教育委員会
山鹿市教育委員会

〔学校関係〕

海津北高等学校
岐阜第一女子高等学校
各務原高等学校
郡上高等学校
加茂高等学校
加茂農林高等学校
岐山高等学校
不破高等学校
羽島高等学校

羽島北高等学校
富田学園
高校地理研究会
岐阜県高等学校助手研究会
岐阜県高等学校生物教育研究会
岐阜大学教育学部
岐阜大学農学部
岐阜女子短期大学
岐阜女子大学
岐阜薬科大学附属薬草園
中部女子短期大学
中京短期大学
聖徳学園女子短期大学
東海女子大学
日本大学文理学部自然科学研究所
国学院大学博物館学研究室
学習院
多摩美術大学
図書館情報大学
立教大学博物館学研究室
同志社大学博物館学芸員課程
明治大学学芸員課程
立命館大学文学部
愛知大学文学部
仏教大学歴史研究所
市邨学園短期大学人文科学研究会
静岡大学理学部地球科学教室
関西大学考古学等資料室
島根大学山陰地域研究総合センター

〔研究機関、出版社、その他〕
奈良国立文化財研究所—飛鳥資料館
文化庁
国立教育会館社会教育研修所
宮内庁書陵部
宮内庁正倉院事務所
農林水産省農林水産技術会議事務局
元興寺文化財研究所
玉川文化財研究所
山梨文化財研究所
東京都埋蔵文化財センター
神奈川県埋蔵文化財センター
千葉県埋蔵文化財センター
千葉県文化財センター
滋賀県埋蔵文化財センター
福岡市埋蔵文化財センター
東京文化史学会
真砂遺跡調査団
広島県草戸千軒町遺跡調査研究所
極楽寺宗教文化研究所
観光資源保護財団
美術研究所
美術文化史研究会
民具製作技術保存会
農林文化研究所
東北新幹線中里遺跡調査会

清荒清澄寺
ポーラ伝統文化振興財団
ポーラ文化研究所
古代学協会
日展
美術倶楽部
行動と文化研究会
日本美術刀剣保存協会
徳島県企画調整部文化の森建設事務局
国土調査
地質調査所
国画会
日本実生研究会
日本常民文化研究所
日本イヌワシ研究会
帝塚山考古学研究所
名古屋植物防疫所
名古屋営林局
活断層研究会
京都服飾文化研究財団
岐阜県観光連盟
岐阜県企画部土地対策課
岐阜県企画部統計課
岐阜県公害研究所
岐阜県工業技術センター
岐阜県農業技術教育センター
岐阜県工業試験場
岐阜県工芸試験場
岐阜県歴史資料保存会
岐阜県昆虫同好会
岐阜県哺乳動物調査研究会
岐阜県情報処理教育センター
岐阜県郷土資料研究会
岐阜県農業総合研究センター
岐阜県デザイン振興会
日本野鳥の会岐阜県支部
日本野鳥の会岐阜支部ヒダブロック事務局
土岐少年自然の家
御嶽少年自然の家
伊自良青少年の家
関ヶ原青少年自然の家
岐阜県文化財保護協会
大垣市文化財保護協会
養老町文化財保護協会
八百津町文化財保護審議会
地域社会研究会
欲齋研究会
徳山村の自然と歴史と文化を語る集い
（揖斐谷の自然と歴史と文化を語る集い）
郡上史談会
霊山顕彰会岐阜県支部
美濃民俗文化の会

飛騨郷土学会
長良川河口ぎぎに反対する市民の会
伊自良文芸クラブ
書道心画院
日本の竹を守る会岐阜県支部
富士市都市整備部みどりの課
東海財団
日本生命財団
中信美術奨励基金
木曾川下流工事事務局
松屋銀座美術部
第一物産株式会社
日本通運株式会社
金子工業株式会社東京支部
飛騨建設工業倶楽部
中日新聞岐阜総局
月刊西美濃わが街社
北白川書房
郷土出版社
TAPタウン情報ぎふ
ほっちぽっち出版社
東京書籍株式会社
岩波書店
東京美術
啓林館
日本美術刀剣新聞社
海外学人日刊社
今日郵政月刊社

〔個人〕
天野 俊也
飯田 国昌
石田 鎌一
岩佐 寛
大地昂太郎
大塚 之稔
大塚 孝一
大塚 佑二
大槌長左衛門
小野木三郎
小窪 和博
清水 正明
高木 泰夫
中島 鉦次
西村 昭平
広瀬 鎮
広田 照夫
堀 誠宏
増山たづ子
三口清次郎
宮崎 惇
森田 潔
森田 誠司
矢内 桂三
吉田 幸平
吉田 博

〔利用状況〕

1. 入館者数

今年度は、入館者総数66,785人、前年度に比べ約9%の減少であった。

また、開館日数は302日であり、1日平均の入館者は221人であった。

月別の入館者数は下表のとおりである。1日の入館者が最も多い日は5月4日で1,781人を数えた。

団体入館者をみると、271団体23,201人で入館者総数の約35%にのぼり、月別では10月が最も多く、団体入館者総数の約42%

を占めている。

これを県内、県外別にみると、県内が184団体13,384人で全体の約58%を占め、県外では愛知県が圧倒的に多く、78団体9,221人で全体の約40%を占めている。

特別展期間中に入館者数は下表のとおりであり、入館者総数47,475人、1日平均349人であった。これは入館者総数の約71%にあたり、特別展への関心の高さがうかがえる。

(1) 月別入館者数

月別	小中生	高大生	一般	計	開館日数	1日平均
4月	2,946人	675人	3,229人	6,850人	26日	263人
5月	4,863	980	5,676	11,519	27	427
6月	1,114	435	2,611	4,160	25	166
7月	1,060	798	1,619	3,477	27	129
8月	1,923	297	3,402	5,622	26	216
9月	1,432	140	3,190	4,762	24	198
10月	8,900	1,500	4,683	15,083	27	559
11月	3,018	364	4,290	7,672	24	320
12月	277	43	591	911	23	40
1月	371	88	1,008	1,467	23	64
2月	445	55	1,208	1,708	23	74
3月	1,110	118	2,326	3,554	27	132
合計	27,459	5,493	33,833	66,785	302	221

(2) 特別展期間中に入館者数

特別展名	期間	小中生	高大生	一般	計
濃飛の弥生時代	62.4.22~62.6.7	6,800人	1,416人	7,709人	15,925人
外国から侵入した生きものたち	62.7.15~62.9.15	3,243	1,182	5,944	10,369
飛驒の匠	62.10.7~62.11.23	11,160	1,766	8,255	21,181
合計		21,203	4,364	21,908	47,475

2. 施設利用者

今年度の講堂、研修室の利用者は次のとおりであった。

(1) 講堂

- 62.9.25 美濃教育事務所
(小中学校新規採用教員研修)
- 63.2.28 岐阜野尻湖友の会

(2) 研修室

- 62.5.24 日本美術刀剣保存協会岐阜県支部
- 8.16 岐阜県中学校理科研究部会
- 9.9 岐阜市中学校教務主任会
- 10.13 岐阜県小中学校教育研究会
- 11.29 日本美術刀剣保存協会岐阜県支部
- 63.2.20 岐阜民俗学研究会

〔博物館関係団体〕

(1) 岐阜県博物館協会

岐阜県博物館協会は「会員相互の連絡提携のもとに、社会教育の健全な推進と文化の向上に寄与すること」を目的に、昭和41年に設立された。協会セミナー（年4回）、機関紙（季刊）、会員研修会（年3回）等の諸活動をくり広げ、設立の目的に沿うべく努力している。

昭和63年3月現在、会員館園は94。個人会員25名、会長以下主な役員は次のとおり。

会長一蒔田浩（岐阜市長） 副会長一平田吉郎・青木允夫・森崎利光 理事長一松本五三
協会事務局は岐阜県博物館内にある。

(2) 岐阜県博物館友の会

「博物館事業の普及を図るとともに、会員相互の教養を高め、親睦を図ること」をめざして発足した友の会も5年目の活動に入った。62年度を振りかえると、その活動がようやく軌道にのったといえよう。

まず会員数は293名に達した。前年度より5名多い微増にとどまったが、この規模で定着したようである。年齢構成は50・60歳代がほぼ半数を占め、実年世代の強い学習意欲を感じさせる。こうした実体からみて、生涯学習の場としての友の会の使命を改めて痛感した。

主催事業のうち、研修の旅は日帰り3回、1泊2日1回の計4回を企画、実施したが、今後このペースを崩さずに計画をたて“仲間とともに学ぶ楽しさ”を十分体験できる内容にしていきたい。

「博物館事業の普及を図る」という目的については、研修の旅のコースの中に、県博物館の特別展を組み入れるなどの工夫を試みたが、さらに検討を加え、実のあるものにしたい。

財政基盤の整備充実のため、前年度末に会則を改正して導入した後援会員制度は、実質的に初年度ではあったが、県内の団体、企業、個人のご理解を賜わり、まずまずの成果をあげることができた。資料等の作成頒布事業の拡充とともに今後も積極的に進めていく方針である。

会務の運営については、会員による自主的な運営という面で、なお研究の余地が多く残って

▼飛驒古川の古い町並みを見学する会員たち



いる。財政基盤の充実とともに63年度の課題といえよう。

●昭和62年度友の会の事業

〈会 議〉

総会4.25 役員会3.26

〈研修の旅、他館見学、講座〉

- ・自然探訪（蛭ヶ野ほか） 5. 3 40名参加
- ・歴史探訪（木曾三川） 6. 21 40名参加
- ・同（中山道ほか） 9. 12 44名参加
- ・同（古川町ほか） 10. 25～26 37名参加
- ・県美術館見学 8. 9 11名参加
- ・歴史講座

〈友の会報発行〉

- ・第11号 4. 1 500部 A5 6頁
- ・第12号 7. 1 500部 A5 6頁
- ・第13号 10. 1 500部 A5 6頁
- ・第14号 1. 1 500部 A5 6頁

〈資料等の作成頒布〉

- ・特別展図録「濃飛の弥生時代」 500部
- 「飛驒の匠」 400部
- ・絵はがき「岐阜県博物館」1種類追加
- ・「展示案内」「ひるがの」等

〈その他〉

- ・親子教室等共催事業 15回
- ・会員助成（入館料補助）
- ・県博物館へ図書寄贈

●昭和62年度友の会役員

会 長 熊田光久
副会長 長屋一男 国光溢夫 廣田照夫
森崎利光

●昭和62年度予算

一般会計 844,228円 特別会計1,201,203円

IV 利 用 案 内

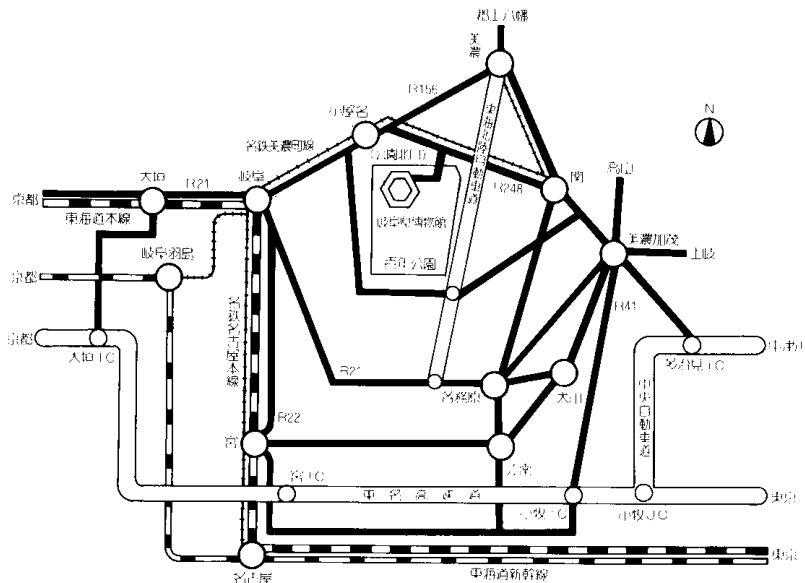
- ・開館時間 4月1日▶10月31日 9時▶16時30分
11月1日▶3月31日 9時30分▶16時30分
(入館は16時まで)

- ・入館料 ()内は特別展開催中の入館料

区 分	個 人	団体(20人以上)
一 般	200円(400円)	150円(300円)
高校・大学生	100円(200円)	50円(100円)
小・中学生	50円(100円)	30円(60円)

※団体で利用していただく場合には、下見においでください。
解説資料・利用案内等をさしあげ、館内をご案内します。

- ・休 館 日 月曜日(月曜日が祝日にあたる時は翌日)
年末年始(12月27日▶翌年1月4日)
- ・駐 車 場 博物館には駐車場がありませんので、百年公園の駐車場をご利用ください。
駐車料金……普通(軽)自動車 200円、バス 500円
- ・交 通 名鉄美濃町線 小屋名下車 徒歩約15分
岐阜バス 小屋名下車 徒歩約15分
自家用車ご利用の場合は百年公園北口からお入りください。



〒501-32 岐阜県関市小屋名(岐阜県百年公園内) ☎(05/5) 28-3111 (代表)